

令和 7 年 10 月 23 日



## 令和 7 年度前期学校評価アンケート 結果と分析

京都市立北総合支援学校

令和 7 年度 前期学校評価アンケート にご協力いただき、ありがとうございました。

◇ 実施期間 令和 7 年 9 月 8 日（月）～9 月 19 日（金）

◇ 分析・表示方法

- 4 つの選択肢（教職員：「よくできている」「大体できている」「あまりできていない」「できていない」 保護者・児童生徒：「はい」「どちらかといえば、はい」「どちらかといえば、いいえ」「いいえ」「わからない」）の総数に対して、「よくできている」と「大体できている」「はい」「どちらかといえば、はい」を合わせた“肯定的な回答”の数値を、保護者・教職員・児童生徒や、各項目間で比較し、分析します
- 成果や課題を把握しやすいように、90%以上を水色、80%未満は黄色で表示します

◇ 対象者・回答率

	教職員	保護者			児童生徒		
		小	中	高	小	中	高
対象者数 (人)	161人	92人	59人	80人	92人	59人	80人
		231			231人		
回答者数 (人)	152人	72人	42人	49人	8人	11人	35人
		163			54		
回答率 (%)	94%	78%	71%	61%	9%	19%	44%
		70%			23%		

## 教職員・保護者

### (O) 全体 ※大項目内の平均値

めざす学校像	教職員	保護者
(1) 子どもにとって安全・安心で生き生きと活動できる学校	97%	97%
(2) 子どもたちが楽しく学ぶ学校	95%	85%
(3) 保護者からも地域からも信頼される学校	97%	93%
(4) 笑顔いっぱいの学校	95%	97%

保護者の回答率がかなり上昇しました(昨年度前期約45%、後期約40%)。ここ数年の大きな課題の一つが、より多くの保護者に回答していただくことでした。回答率を上げるための方策の1点目として、昨年度までは、学校経営方針の「めざす子ども像」から設問を設定していましたが、今年度は「めざす学校像」から設問を設定しました。「学校全体としてどうか」を尋ねることで、これまで以上に、客観的な視点で回答できるようにしました。2点目は、内容を精選し、且つ直感的に答えやすい設問にしました。結果、先述の通り、保護者の回答率が大幅に上昇しました。

今回は、教職員と保護者の設問数や設問の文言に違いがあります。これは、大枠としては、教職員・保護者ともに同様の内容ですが、教職員については、より細かな視点から評価するための工夫です。

全体として見ると、どの項目も肯定的な回答がほとんどでした。これは、本校の取組が概ね、保護者からは好意的に受け取られている、教職員からは自信を持って取り組んでいる結果だと考えられます。「(2)子どもたちが楽しく学ぶ学校」については、保護者の回答が他の項目と比較して、数値が下がっております。これは後でも述べますが、否定的な回答が多かったというよりも、「わからない」の回答が他と比較して多かったためです。

(1) 子どもにとって安全・安心で生き生きと活動できる学校

教職員		保護者	
1 校内や教室は、清掃され、衛生的である	9 6 %	1 学校は、子どもが安全・安心に学べる場（衛生面、校内環境面、防災面等）になっていますか	9 6 %
2 学校は、教材や備品の整理整頓、安全・事故対策、防災対策等を実施している	9 6 %	2 学校は、子どもの健康維持や体力づくり、心の安定に関する取組を適切に行なっている	9 8 %
3 学校は、子どもの健康維持や体力づくり、心の安定に関する取組を適切に行なっている	9 8 %	2 学校は、子どもの健康維持や体力づくり、心の安定に関する取組を適切に行なっていますか	9 8 %

この項目では、全ての設問において、大多数の教職員・保護者が肯定的な評価をしています。昨年度の同内容の設問と比較しても、数値が上がっています。日常からの清掃や毎月設定している環境整備日、学校安全日等の取組を継続してきたことで、衛生的かつ安全な学校であると評価されているのだと思われます。

教職員の設問3、保護者の設問2についても肯定的な回答が多くを占めています。多くの子どもが毎日元気に登校しています。毎日登校することが難しい子どもについても、自身の体調に合わせたり、気持ちと向き合い自身のペースを考えたりしながら、登校したり学校以外の場所で学習に取り組んだりしています。そのようなことを踏まえた結果、健康維持や体力づくり、心の安定に関する取組についての高評価につながっているのだと思われます。

保護者は安心して子どもたちを学校に送り、教職員は自信を持って子どもたちを受け入れる、そのような学校であり続けられるよう、取組を継続していきます。

## (2) 子どもたちが楽しく学ぶ学校

教職員		保護者	
4 学校は、子どもに関する願いと実態をもとにした目指す姿の実現に向けて教育内容を設定し、指導計画を立て、実施に努めている	95%	3 学校は、子どもの目指す姿の実現や可能性の拡大のために、指導計画や指導内容を適切に設定し、子どもが楽しく学べる授業や行事等を展開していますか	94%
5 学校は、子どもが主体的に考え、工夫し、他者との関わりの中で、生き生きと楽しく学べる教育活動の推進に努めている	96%		
6 学校は、子どもの可能性が広がり、自己有用感が高まるように、役割活動や行事等での活躍の場を適切に設定している	98%		
7 地域資源を活用した教育活動が、子どもの主体性や社会性の育成につながっている	92%	4 学校での地域資源を活用した学び（地域の施設や店舗での体験交流活動等）が子どもたちの成長につながっていると思いますか	85%
8 学校は、子どもたちの成長のために、ＩＣＴを活用した授業や取組を適切に実施している	95%	5 学校は、子どもたちの成長のために、ＩＣＴを活用した授業や取組を適切に実施していますか	76%

教職員・保護者ともに、全体として本校の学習活動について高い評価となっております。「個別の包括支援プラン」に基づいた学習や取組が充分になされている結果だと考えます。保護者からの自由記述では、個に応じた支援や環境設定、教材教具や学習内容の工夫等に感心する意見が複数ありました。教職員の設問5・6では、多くの教職員が高い評価をしています。本校が自信を持って質の高い授業や取組を日々実践し、保護者からも肯定的に受け入れられている証であると考えます。

しかしながら、今年度の取組の重点に挙げている、地域資源やＩＣＴを活用した教育活動に関わる教職員の設問7と8、保護者の設問4と5については、特に保護者の方について、他の設問と比較して数値に大きな差があります。これは、否定的な評価があるというわけではなく、「わからない」と回答する保護者が一定数いるためです。特に、保護者の設問5については、約2割の保護者が、「わからない」と回答しています。自由記述にも「ＩＣＴを活用していることは知っているが具体的にどのように取り入れられているか分からない」と具体的に記載している保護者もいます。具体的な実践やそれに伴う児童生徒の成長等を発信したり、家庭等でのＩＣＴ活用の拡充を進めたりすることを通じて保護者の数値が上がっていくことを期待します。

(3) 保護者からも地域からも信頼される学校

教職員		保護者	
9 学校は、保護者や地域社会への情報共有（広報活動・参観など）を適切に行なっている	99%	6 学校は、保護者や地域社会への情報共有（学校だよりやすぐ一 る等による学校の様子の発信、参 観日の設定等）を適切に行なって いますか	98%
10 教職員は、適切な言葉遣いや態度で子どもや保護者に接している	95%	7 教職員は、適切な言葉遣いや態度で子どもや保護者に接して いますか	95%
11 教職員は、子どもや保護者の思いを受けとめ、誠実に対応している	99%	8 学校は、子どもや保護者の思 いを受けとめ、必要に応じて保護 者・福祉・医療・行政などと連携 して対応していますか	
12 学校は、保護者・福祉・医療・行政などと適切に連携して、状況や課題を把握し、対応している	96%		87%

この項目についても概ね肯定的な評価となっております。これは、保護者や児童生徒に対して、教職員が普段から真摯に対応している結果だと思われます。保護者の設問8については、他と比較して数値が下がっていますが、約1割の保護者が「わからない」と回答しているためです。「わからない」と回答している保護者の学部・学年については、特にどこかの学年に偏っているわけではありません。これまで、他機関と積極的に連携をする必要がなかった家庭が一定数あるということだと考えられます。子どもの成長に伴い様々な機関と連携が必要となってきますが、教職員の設問12の数値は、96%と高い数値になっています。「わからない」と回答した保護者が、今後連携が必要になってきた場合に、自信をもって対応できる結果かと思われます。

#### (4) 笑顔いっぱいの学校

教職員		保護者
13 学校は、明るい雰囲気で、教職員や子どもの笑顔があふれる場である	98%	
14 教職員は、人権意識を高く持ち、多様な価値観を認め合う姿勢を持っている	96%	9 学校は子どもや教職員の笑顔があふれる場となっていますか 97%
15 学校は、教職員が働きがいを感じられる職場づくりを進めている	91%	

大多数の教職員・保護者が、本校は明るい雰囲気で笑顔があふれる学校だと感じていることが分かる結果となりました。めざす学校像に挙げている「笑顔いっぱいの学校」がほぼ達成されている証と捉えています。今後も笑顔があふれ続ける学校でありたいと思います。

教職員の設問15では、約1割の教職員が「あまりできていない」「できていない」と回答しています。学校全体が明るい雰囲気だと感じてはいるが、自身の働きがいとは別だと感じている教職員が一定数いるということが分かります。今回は教職員の自由記述が少なかったため、詳細については今後の検討課題になります。それぞれが望む業務内容や担当で働けていない、周囲のサポートが得られにくい、オーバーワークであるといったことが理由として予想されます。本校には非常に多くの教職員が勤務しています。全員が希望する担当や業務を担い、適度な仕事量で働くということは難しいですが、周囲からのサポートを丁寧にしたり、気軽に悩みや相談を話したりすることが日常的にできる風通しのよい職場環境をつくり、これまで以上に働きがいを感じられる職場を目指していきたいと考えます

## (5) 自由記述（保護者）

多くの高評価や温かいご意見をいただき、今後の励みになります。また、ご指摘や今後の改善点もいただいております。今回いただいた意見については、校内で検討し、北総合支援学校がより良い学校になっていけるようにしていきたいと思います。

（いただいた意見の中から一部、要旨抜粋して記載しております）

- 安心できる環境の中、日々楽しく学校に通っている
- 工夫と試行錯誤がずっと続く授業や取組、本人の可能性を広げる取組に感謝している
- 子ども自身が理解できる指示や支援、細やかな配慮がなされている
- 工夫された学習内容や構造化された環境設定がなされている
- 教職員、バスの乗務員等、みんな元気で大きな声で挨拶を交わしていただけて、行くたびに気持ち良く過ごせている
- 子どもが楽しく学校に行けているのは先生方や関係各所の皆様のおかげだと感じている

▽ 参観日が毎回午前の設定で、午後の設定も作ってほしい

▽ コロナはもはや通年の感染症となり、これからはインフルエンザも流行り始める。マスクを適切に使用できない子もいるかと思うが学校内で流行しないように対策をしてほしい

▽ 制約も多いが、せっかく体制の整っている支援学校ですから、危ない！できない！ではなくどうやったらできるかなあと本人の思いに耳を傾けてこれからも活動の幅が広がることを期待している

▽ STなど専門職の指導の機会があるとありがたい（現状、あるのであればフィードバックがほしい）。足りないのであれば専門職の数を増やして欲しいです

▽ ICTの取り組みは通常学級とは異なるアプローチが必要で、先生方が苦労して実践している分野だと思うが、具体的に何が取り入れられているのか、保護者からはわからない

▽ 教員の数が足りなく、支援体制に不安を感じる時がある

▽ 参観日に保護者以外の方も参観されているが、知らない方がたくさん入って来られることに疑問を感じる。

▽ 中央分校との交流を増やしてほしい

▽ ルールや等を厳しく教えて欲しい

▽ 教員の専門性向上を期待する

▽ 進路選択を親任せのように感じる。大事な進路を決めるにあたって不安を感じる

## 児童生徒

### (0) 全体 ※大項目内の平均値

めざす子ども像	
(1) 健やかな身体をつくる子ども	9 3 %
(2) 自分の思いをのびのびと表現する子ども	8 5 %
(3) 他者を尊重し、かかわり合いながら学ぶ子ども	9 2 %
(4) 自分のできることを発揮する子ども	9 1 %

#### (1) 健やかな身体をつくる子ども

1 からだの学習やエクササイズ、ダンス、ランニングなどで、健康なからだ作りをしていますか	9 4 %
2 学校や教室の掃除や片付けをしていますか	9 1 %

#### (2) 自分の思いをのびのびと表現する子ども

3 自分のやりたいことや頑張りたいことを周りの人に伝えてありますか	8 7 %
4 心配なことや不安なことがあると、先生に相談していますか	8 3 %

#### (3) 他者を尊重し、かかわり合いながら学ぶ子ども

5 友だちと仲良く過ごしていますか	9 1 %
6 家族や友だち、先生を大切にしていますか	9 4 %

#### (4) 自分のできることを発揮する子ども

7 学校の学習で「できた!」「やった!」と感じていますか	9 3 %
8 新しいことにチャレンジしようとしていますか	8 9 %

全体を通して、高評価な結果となっていますが、「自分の思いをのびのびと表現する子ども」の項目は、少し数値が低くなっています。児童生徒の回答数がそれほど多くないので、一概に回答率の比較はできませんが、関連する教職員の設問11は99%と高い数値が出ています。本校には、表出することが難しい、伝えることを我慢してしまう等、コミュニケーション面、心理面で課題を抱える子どもが多数います。教職員と子どもの乖離を少しで小さくできるよう、教職員はこれまで以上に、子ども一人一人に対して真摯に向き合い丁寧に対応し、子どもたちの心の安定を図れるようにしていきたいと考えます。

また、「自分のできることを発揮する子ども」の項目にも、否定的な回答をした子どもが一定数います。本校の子どもは、自信を持ちにくかったり、慣れない環境で自分の力を発揮しにくかったりする場合が少なくありません。子ども一人一人に応じた支援や手立ての設定、成功体験を積み重ねて自信につなげる取組などを通じて、自分のできることを発揮できる子どもの育成に努めていきたいと思います。

